

校長 田村 嘉則

今年もまた春が巡ってきました。温かな日差しに包まれて、春独特の空気や風を感じます。芽吹き始めた草花たちも、春の到来を喜び、生徒諸君の門出を祝福してくれています。

本日は、春日部市教育委員会教育長職務代理者 水沼 章文 様、春日部市教育委員会学校教育指導課 指導主事 関根 敦史 様のご臨席を賜り、三年生百十六名の保護者の皆様をお迎えして、春日部市立飯沼中学校第四十回卒業証書授与式を挙行できますことに、本校教職員を代表し、感謝を申し上げます。本日は誠にありがとうございます。また、本来であれば、この場にご臨席を賜るはずの春日部市議会議員の皆様をはじめとする地域の御来賓の皆様には、参列を見合わせていただいたこと、お許しいただきたく存じます。さらに、お世話になった先輩方に感謝し、精一杯の気持ちを込めたエールを送るはずの在校生がいない卒業式であることも併せて残念なことではありますが、ご理解をいただきますようお願いいたします。

さて、保護者の皆様におかれましては、十五年間、優しく、温かく、時に厳しく、お子さまの成長を誰よりも深い愛情を持ち、一番近くで成長を見守り、支え続けてくださったお子様のご卒業に心からの祝意を申し上げます。本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。これまでの子育ての苦労や喜びが走馬灯のように脳裏をよぎり、感慨もひとしおのこととお察しいたします。義務教育が修了するとはいえ、まだまだ保護者のお力添えが必要なことがたくさんあります。今後とも、お子様の成長を付かず離れずの距離で見守ってくださいますようお願い申し上げます。

三年生の生徒諸君、諸君らの三年間に及ぶ本校での研鑽が実を結び、卒業の時を迎えました。今日までよくがんばったことに本校職員を代表して祝意を述べる。卒業おめでとう。諸君らにとって、この飯沼中学校で過ごした三年間のうち、はじめの約一年間は、しらさぎの舞う自然豊かな環境で、本校の伝統となっている、伸び伸びとした校風に沿って、心穏やかに過ごしたことと思われれます。しかし、二年前の春、新型コロナウイルスが世界中を脅かし、それ以降、学校は休校や分散登校、そして学校行事や部活動の内容を大きく制限されるという、かつて経験したことのない事を幾度となく繰り返しました。昨年度、諸君らが二年生の六月に、学校は再開しましたが、体育祭、合唱祭、部活動の大会や文化部のコンクール、そして二年生最大の行事であるスキー教室などがことごとく中止となりました。当時一つ年上の先輩方がそのような状況下でも、しなや

かにそして粘り強く中学校生活を送っている姿を見て、幼さの垣間見える諸君も健気に過ごしていたこと、そして、当時まだ中学二年生であった君達にも我慢を強いてしまったことは、とても胸の苦しい日々だったことを鮮明に覚えています。

三年生となった今年度も、数か月ごとに押し寄せる新型コロナウイルスの波に翻弄され、体育祭と学校総合スポーツ大会は何とかできたものの、中学生にとって最大の楽しみであるはずの修学旅行が中止となりました。しかし、今年の飯沼中学校の生徒と教職員も大変しなやかで、そして強かった。本校職員と生徒たちが互いに知恵を出し、協力し合い、学年の文化祭であるEフェスやしらさぎ祭を実行しました。「転んでもただは起きぬ」、この言葉をスローガンに、笑顔を絶やさず力強く道を切り拓いた諸君には、頼もしさを感じ、そして感謝の気持ちで目を細めることが何度もありました。

本日ここに、百十六名の生徒全員が無事に卒業を迎え、卒業証書を授与することができました。希望に満ち溢れた卒業後の進路も全員、決めることができました。今、ここで改めて、全員が無事に飯沼中学校を卒業できることの重みを共に深く考えよう。

今日は、本校を卒業していく諸君たちに、卒業のはなむけとして、校長の私から1つ話をしたい。それは「人の愛を知りなさい、そして自分も人を愛し幸せにできる人になりなさい」ということです。これまで15年間、君を誰よりも愛してくれたのは誰ですか、常に健康を気遣ってくれ、どんな失敗にも最大の理解者として君を支えてくれたのは誰ですか。進路が決まったときに、一番喜んでくれたのは誰ですか。また、この3年間、君の持つ良さや取り柄を気づかせてくれ、それを伸ばし、見守り続けてくれたのは誰ですか。進路で思い悩んだ日々に熱い言葉で君を支えてくれたのは誰ですか。学校生活において、一人くじけそうになったときに、心に潤いを与えてくれる優しい言葉をかけてくれたのは誰ですか。コロナ禍で、不安でさみしくつまらない日々を送っている君達に、日光への校外学習、パフォーマンス集会、Eフェス、そしてしらさぎ祭をさせてくれたのは誰ですか。これらのことに思いを巡らせると、君達は、たくさんの方々に愛され、そして生かされてきたということが分かるはずです。そしてこれからも生かされて生きていくのです。その根底には、君を愛してくれる人がいるということ。これから先も君は一人じゃない。君を愛し、支えてくれる人への感謝の気持ちを決して忘れずにがんばりなさい。そして、困ったときには遠慮なく相談しなさい。そしていつか、諸君も人を愛し、自分がしてもらったように、人を支え、幸せにしてあげられる人になりなさい。

この歴史的な出来事の期間、飯沼中学校で過ごし、仲間と切磋琢磨し、たくさんの方々

に愛情を注いでいただいたことのすべてが良かった…そう思える日が必ず来ます。

いよいよ巣立ちの時が来ました。別れは辛く寂しいものではあるが、同時に新たな出会いや希望が君を待っています。この学び舎を巣立つにあたり、今ここで、新たな誓いを共に立てよう。皆それぞれ道は違えど、「より良い明日を、より良き未来を共に創ろう」。飯沼中から世界へ、飯沼中から未来へと飛び立つのです。

さあ、振り向かずに行きなさい。私からは、「さようなら」ではなく、「ありがとう」と言います。ありがとう、日本一の中学生、君らはいつまでも我が誇りです。優しさとたくましさをありがとう。いつか友としてまた会おう。

巣立ち行く諸君の限りない可能性と、今後の活躍を祈念すると共に、御多用の中、御臨席を賜りました御来賓並びに保護者の皆様に重ねてお礼を申し上げ、式辞といたします。

令和四年三月十五日 春日部市立飯沼中学校長